YAMAHA

SR-X Style Revolution-X

世界で愛用されている信頼の4ストローク船外機。

高い信頼性や耐久性はもちろんのこと、優れた動力性能を実現。さらに環境性能までを徹底追求した、世界中で愛用されるヤマハの4ストローク船外機。3バリエーションから選ぶことができます。

ダイナミズムを体現したキャノピー。

アグレッシブな全体フォルムを際立たせ、スポーティな感性まで主張するキャノピー(OP)を用意。上面と背面を囲うことでドライバーの「パイロット感」を演出しつつ、日差しによる暑さ、まぶしさをやわらげます。

操る悦びをかりたてるインパネレイアウト。

ダッシュボードには、各種メーター類の他、施錠可能なビルトイン式の大型航海計器ボックス(OP)も用意。GPS 魚探(OP)や国際VHFトランシーバー(OP)などが機能的にレイアウトできます。

親水性を高めるトランサムステップ&ラダー。

水面に近い高さに、一体型のトランサムステップを配置。水面へのアクセス、係船時の乗り降りにも便利。また、水面からの乗り込みに便利な内蔵型のトランサムラダー(OP)を用意しました。

クラスを超えたスタビリティを提供する、A.R.B.。

A.R.B.(アンチ・ローリング・ブレード)と名付けた下向きに角度を持つチャイン形状とサイドスポンソン(OP)と呼ぶブレードにより、静止時、航走中など、あらゆるシーンで高い安定性をもたらします。

卓越した風流れ抑止性能の核W.T.B.。

クラストップレベルの風流れ抑止性能を実現する専用設計のW.T.B.(ウェーブ・スラスター・ブレード)。さらに快適な乗り心地とスムーズな旋回性能、離着岸時の操船性の向上を実現します。

SR-Xという、

Extremeという名の「新化」。

ヤマハの「モノ創り」の原点は、「いかにユーザーの目線に立って考えられるか」にあります。常に先駆者であり続けるために、永年培ってきた技術力を昇華させ、トレンドや多様な変化に適応しながら完成度の高い製品へと結実、人々に「感動」を受け取って欲しいと願っています。SR-Xもこの「モノ創り」の哲学をベースに開発がスタート。どうすれば、もっと海を身近に感じてもらえるようになるのか。どのようなボートを開発すれば、よりボーティングを満喫してもらえるのか。日本各地のボート愛好者、フィッシング愛好者、ボートレジャーに興味を持つ多くの人々に出会うなかで膨大なインフォメーションを授かり、試行錯誤しながら分析を重ねました。その結果、“所有することに満足を感じられる”“スポーティなフィッシングスタイルを示唆できる”“行動的な仲間が集って楽しみを共有できる”“求めやすさはそのままに、期待を大きく上回るスペック”などのキーワードが浮かび上がってきました。そして、半世紀にわたって培われたノウハウ、テクノロジー、ブランドの感性をフルに動員し、具体的なアウトラインを描いていきました。

SR-Xは、これまでのプレジャーボートの概念をまったく変えてしまうコンセプトをもち、高いファンクションとパフォーマンスを融合させた、斬新なイマジネーションにあふれたボートです。安心してボーティングを楽しめるドライバビリティ、より優れた走行性能を与えてくれる高剛性ボディ、長時間のクルージングでも疲れにくい快適性の追及。コンパクトなボディを最大限に活用するデッキレイアウトや従来の発想を覆すラゲージルーム（カディ）のレイアウト。さらにフィッシングシーンで効果を発揮する静止安定性、圧倒的な風流れ抑止性能など、これら相反する様々な要素を高いレベルでバランスさせていきました。そして、これらの機能と性能を包み込んだエクステリアデザイン。アーマー（装甲）を彷彿とさせるユニークなフェイスとストラクチャーラインは、独創的な新しさに満ちています。企画、開発、デザイン、そして製造にいたるまで——、ヤマハのSR-Xは、ここに「Extreme（エクストリーム）」という名の「新化」を遂げたのです。

アクティブなフィッシングステージを生む、バウ＆スターンレール。

ゲームフィッシングのための機能を追求し、スタンディングポジションに最適な高さのバウレール（OP）とスターンレール（OP）を用意。アクティブなフィッシングをサポートします。

※写真はバウレール

ドライネスをもたらすワイドフレア。

スクエアバウの採用によってバウのフレアが拡大。チャイン形状との相乗効果で、航走時のスプレーを抑え、高い波落とし効果を発揮。ドライなクルージングシーンを提供します。

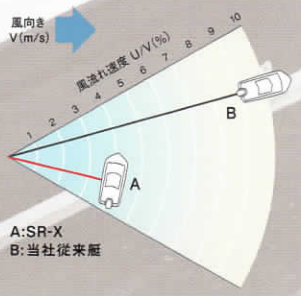
イマジネーション。

横揺れを抑え、快適な乗り心地を追求

設計には1ミリ、1度のスケールに拘った、ヤマハ独自のボート開発システムY.P.D.S.(ヤマハ・パフォーマンス・デベロップメント・システム)のシミュレーション技術を採用。ボートの使用目的を想定しハルの最適な幅と船底勾配の組み合わせを決定しています。チャイン部には、独自技術であるA.R.B.(アンチ・ローリング・ブレード)を採用。サイドスポンソン(OP)と呼ぶブレードと組み合わせることで、揺れにくさだけでなく揺れの収まりやすさを進化させました。さらに、キール部には、W.T.B.(ウェーブ・スラスター・ブレード)を採用。着水時の衝撃を和らげるとともに、バウ近辺のボリュームを最適化させることで上下G、前後Gともに、低減することにも成功し、従来比で大幅な乗り心地の向上を実現しました。

ポイントで風に流されにくいボート

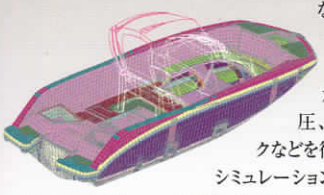
狙ったポイントで風に流されず、いかにボートを長時間留まらせることができるか。その命題に応えるのがW.T.B.の採用です。新しく開発されたSR-Xの船型では、W.T.B.のバランスを最適にアレンジすることで、クラスではトップレベルの風流れ抑止性能を実現しました。さらに、風流れ抑止性能だけでなく、操作性を考慮した設計を採用したことで、スムーズな旋回や離着岸をサポートします。



A:SR-X
B:当社従来艇

独自の構造解析と、実験艇によるテスト

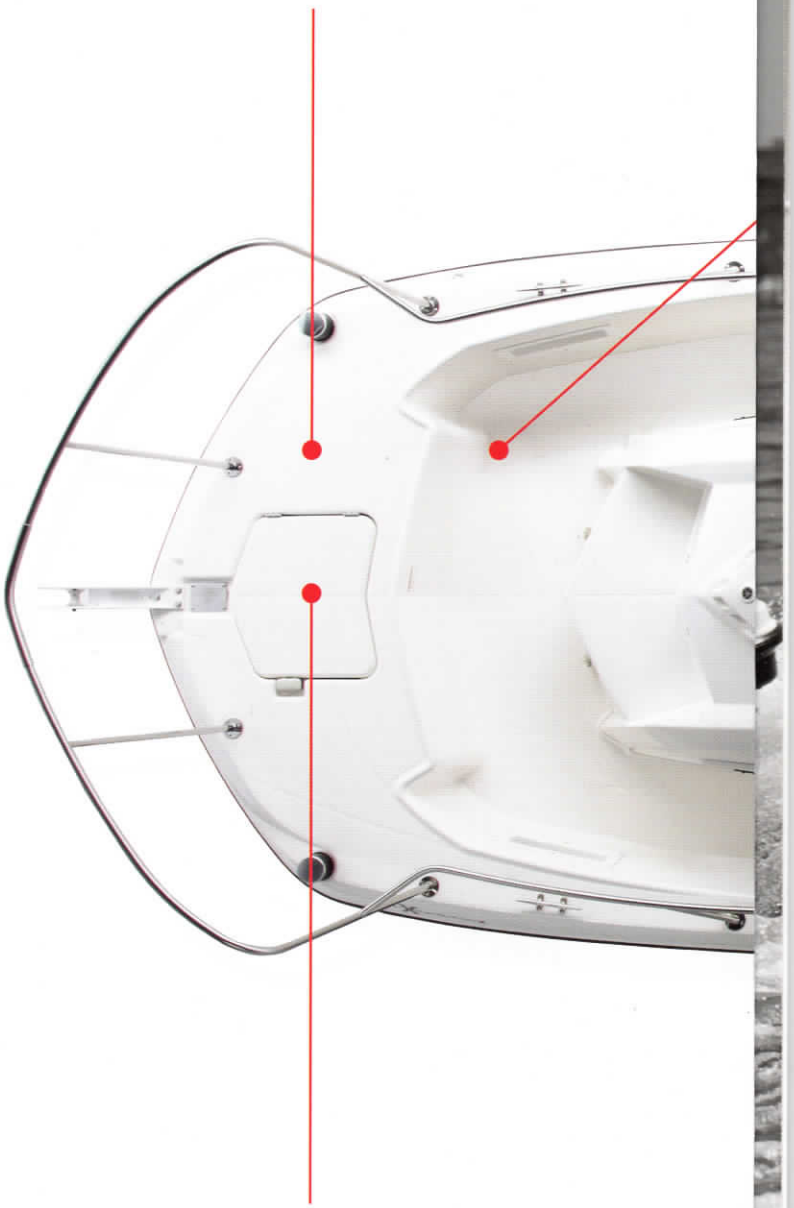
ヤマハでは、ハイクォリティなボートを安定的に生産するため、3D設計による型加工技術、構造解析技術を駆使し、ボートを設計しています。耐航性、剛性と強度を保ちつつ無駄な贅肉をそぎ落としながら重量バランスを追求。さらに構造解析シミュレーションに加え、実艇による航走耐久テスト、たとえば、水圧、加速度、各部の応力チェックなどを徹底的に行っています。解析シミュレーション技術と航走耐久テストの積み重ねが、ヤマハクオリティを生み出しています。



SR-Xのハル構造

アドバンスドデザイン スクエアバウ。

SR-Xを特徴付ける形状の一つ、スクエアバウは、従来のボートにはない、エクステリア上での圧倒的な存在感を示します。さらに、バウデッキのフィッシングスペースを大きく広げています。



ウィンドラス(OP)内蔵型 バウロッカー。

スクエアバウの採用により、バウロッカーの容量も増加。また、バウデッキを有効なフィッシングスペースとするため、ウィンドラス(OP)をロッカーに内蔵する方式を採用しました。

4名がロッドを振れる広いデッキスペース。

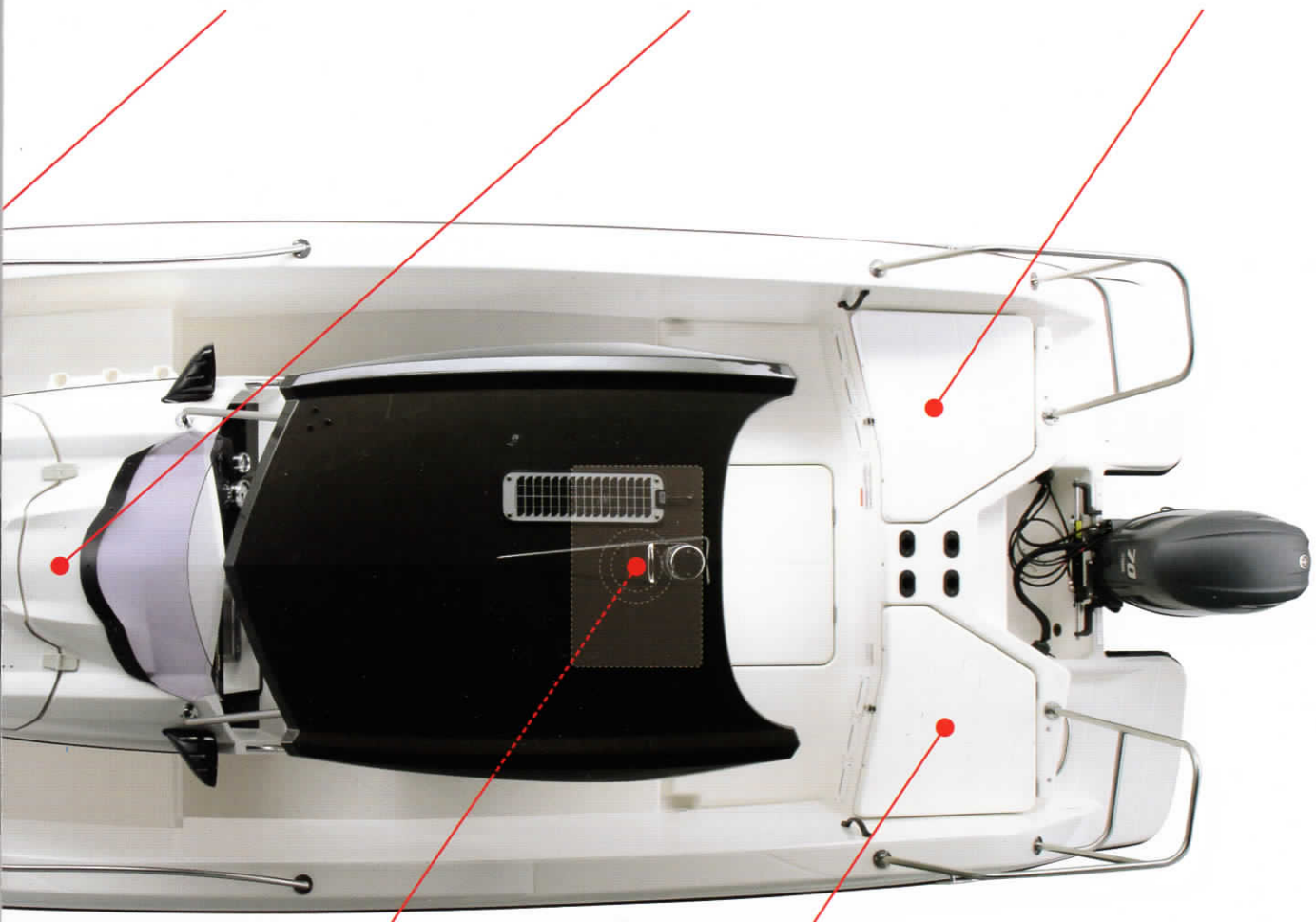
コンパクトなボディに最大限のフィッシングデッキを創出。船首から船尾までを目一杯有効活用し、4名が同時にロッドを振ることができる、同クラスでは抜群の広さのデッキスペースを確保しました。

ラージ・キャパシティのラゲージルーム(カディ)。

電動マリントイレの設置ができ、7フィートのワンピースロッドを収納できるクラスを超えた大型ラゲージルーム。エントランスハッチをバウ側に設置することでトイレ使用時のプライバシーの確保にも配慮しています。

2WAYで使える ワイドなリアシート。

フィッシングステージとしても使えるスターンハッチ部分には3名が着座可能。快適なクルージングに役立つリアシートクッション(OP)も用意しました。



充実の釣果にも応えるライブウェル(イケス)。

スターンデッキ中央には、80リットルの容量をもつイケスを標準で装備。充実した釣果に備えます。ハッチにはインスペクション(OP)を装備することも可能です。

オリジナルデザインのハッチ。

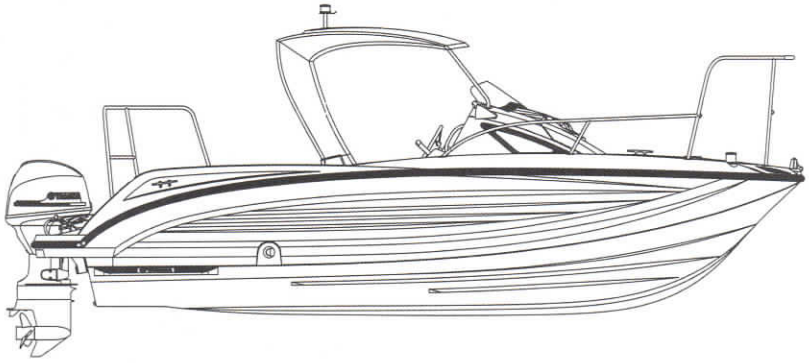
機能を低下させることなく、かつ有機的なフロアデザインを実現するため、すべてのハッチにおいてSR-Xの特徴的なエクステリアにふさわしい独自デザインを採用しました。

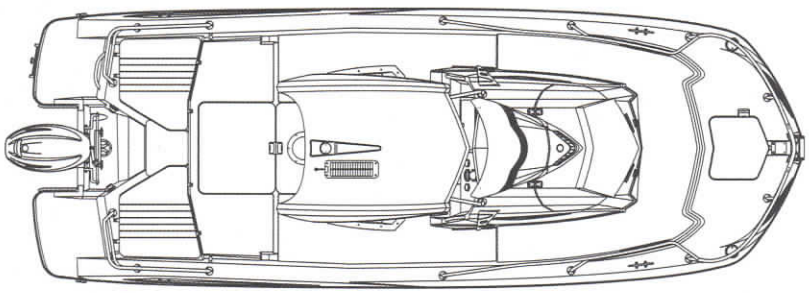
ゲームフィッシングに有効なロッドホルダースペース。

一人で何本もロッドを持ち込むフィッシングスタイルを考慮し、サイドマウント式、埋め込み式のロッドホルダー(OP)の取り付けスペースを各所に配置。フィッシングスタイルに合わせ増設が可能です。

SR-Xという、ポテンシャル。

Specifications & Equipments





オーナーの思惑に応える充実の装備

あらゆるスペックを最適化し、それぞれのポテンシャルを研ぎ澄ましていく——。デザイン、性能、機能、仕様、価格までも、トータルで最適なバランスを追求したSR-Xには、完成されたボートとして必然のアビリティがある。一つは、フィッシングシーンでの高いポテンシャル、もう一つはドライビングプレジャーを提供する、ランナバウトとしてのプロフィール。そのために、最新テクノロジーの結集、エクステリアデザイン、フィッシングシーンでのユーザビリティも、クルージングのためのポテンシャルも、細部の細部まで突き詰められた。しかし、洗練させたのはそれだけではない。オーナーがイメージする多彩なプレジャーシーンに応えるべく、オプショナルアイテムを充実させている。そこには「ボートを所有する悦び」だけにとどまらず、「ボートを使いこなすことの愉しさ」を増幅してくれる鍵があるはずだ。

主要諸元

	登録型式	全 長	全 幅	全深さ	船体質量	完成質量	搭載エンジン	最大搭載馬力	燃料タンク容量	定 員	航行区域
SR-X F115					783kg	993kg	F115AETX	84.6kW (115ps)	100ℓ		
SR-X F70	E3X1	6.25m	2.28m	1.29m	766kg	902kg	F70AETX	51.5kW (70ps)	24ℓ(別体式燃料タンク)	5名	限定沿海
SR-X F50					742kg	872kg	F50FETX	36.8kW (50ps)	—		

❶ハンドレール/手動油圧ステアリング/リモコン/アナログメーター /エンブレムキット/大型航海計器ボックス/ハイグレードステアリングホイール/カーボン調メーターパネル/コンパス/GPS魚探/国際VHFトランシーバー

❷バウレール

❸バウロッカー/アンカーデービッド/ウィンドラス

❹カディエントランスハッチ

❺電動マリントイレ(カディ内部)

❻ウインドシールド

❼バックミラー

❽ドライバーズシート

❾キャノピー

⓫ロッドホルダー(埋め込み式)

⓾ロッドホルダー(サイドマウント式)

⓬キャビンハッチ

⓭シートベース

⓮イケス/イケススカッパー

⓯サイドスポンソン

⓰航海灯マストセット/ソーラーパネル

⓱航海灯セット

⓲スターンレール/リアシートクッション

⓳トランサムラダー

標準装備品		F115	F70	F50
ハル	ドレンプラグ	○	○	○
	アンカーロッカー排水	○	○	○
バウデッキ	バウハッチ	○	○	○
	バウロッカー ❸	○	○	○
	クリート×2	○	○	○
カディ・コックピット	ウインドシールド ❻	○	○	—
	ブリッジ	○	○	○
	ハンドレール×3 ❶	○	○	○
	手動油圧ステアリング ❶	○	○	○
	リモコン ❶	○	○	○
	アナログタコメーター ❶	—	○	○
	アナログアワーメーター ❶	—	○	○
	アナログトリムメーター ❶	—	○	—
	コマンドリンク	○	—	—
	カディエントランスハッチ ❹	○	○	○
	ドライバーズシート(2名) ❽	○	○	—
スターンデッキ	シートベース ⓭	○	○	—
	クリート×2	○	○	○
	バッテリーBOX(2個可)	○	○	○
	ハンドレール×2	○	○	○
	スターンハッチ	○	○	○
	イケス ⓮	○	○	○
	イケススカッパー ⓮	○	○	○
	デッキ排水スカッパー	○	○	○
	インスペクション	○	○	○
	別体式燃料タンク(24ℓ)	—	○	—
	固定燃料タンク(100ℓ)	○	—	—
艤装	バッテリースイッチ	○	○	○

カラーバリエーション(ガンメタリック対応)
- ハル
- キャノピー/シートベース

※F50はハルのみの対応

工場オプション
- キャノピー(FRPオーニング)※1 ❾
- エンブレムキット ❶

※1 F115/F70に取り付け可能

純正オプション
- トランサムラダー ⓳
- サイドボックス
- バウレール ❷
- スターンレール ⓲
- 大型航海計器ボックス ❶
- カディ明り取り窓(ポートライト)
- アンカリングプレート
- サイドスポンソン ⓯
- 補機ブラケット※2
- キャビンハッチ&ブレーカーパネル ⓬
- 航海灯セット ⓱
- 航海灯マストセット(キャノピー無し)
- 航海灯マストセット(キャノピー有り) ⓰
- ターミナルブロック(バッテリー用端子)
- リアシートクッション ⓲
- ハイグレードステアリングホイール ❶
- カーボン調メーターパネル ❶
- バックミラー ❼

※2 F70のみ対応

用品オプション
- 電動マリントイレ ❺
- アンカーデービッド ❸
- 三方ローラー
- ウィンドラス ❸
- イケス用インスペクションハッチ
- ロッドホルダー(サイドマウント式) ❿
- ロッドホルダー(埋め込み式) ⓫
- コンパス ❶
- GPS魚探 ❶
- 国際VHFトランシーバー ❶
- バッテリー補充電用ソーラーパネル ⓰
- ルームライト
- ターミナルブロック(予備端子)
- 別体式燃料タンク(24ℓ)

※写真には、オプション装備品および、撮影のための小道具が含まれています。